

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	中途退学した子ども・若者が将来につながる教育や技術を身につけることができる。 (1 年次目標) CLC のコンテンツの再構築と環境整備を行うことで将来につながる教育や技術を身につける環境を中途退学した若者に提供することができる。
(2) 事業内容	2020 年 2 月 25 日の事業開始から本部事業担当により現地での調整を開始したが、2 月下旬より始まった新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、本事業の各活動に大幅な遅れが生じた。 ＜感染予防対策による活動制限＞ ・ 4 月～5 月：カンボジアへのフライト減少や入国後の状況など不明瞭なことが多く、4 月、5 月に雇用した本部スタッフ駐在員の派遣が困難であった。 ・ 4 月 10 日より、カンボジア国内において州間の移動禁止令が発令されたため現地事業統括、アドミニストレイティブ・オフィサーなどが勤務しているバットアンバン州からパイリン州への移動が困難となった。 ・ 4 月下旬の移動禁止令解除後も現地の商店や企業の多くが自主的に休業をしていたため情報収集が難航した。 6 月中旬以降、上記状況の改善が見られたため、本部スタッフ駐在員の派遣、現地スタッフの雇用を開始し、7 月下旬より現地での活動を実施した。 現地での活動が遅れたことに伴い、建設や職業訓練などの実施計画を大幅に変更することとなった。 (主な変更内容) ・ Ou Doun Ta CLC 建設着工の遅れに伴う職業訓練 4 ヶ月×3 コース×1 期の中止。 ・ Phnom Koy CLC 職業訓練実施のニーズアセスメント遅れに伴う、職業訓練 4 ヶ月×2 コースを 2 期目の中止 (1 期のみ実施)。 (カ N31 第 3 号 事業変更承認申請書) 1. CLC の利用環境改善 1-1 : CLC の施設設備の整備 ＜Ou Doun Ta CLC 建設＞ 5 月中旬より Ou Doun Ta CLC の建設を計画していたが、上記状況により、入札公示・建設開始が 7 月中旬からとなった。入札公示からは特に大きな遅れが生じることもなく 12 月 1 日には Ou Doun Ta CLC の建設が完了した。以下、建設完了までの主な流れである。 ・ 7 月 16 日：入札公示 ・ 7 月 22 日：パイリン州の建設業者 3 社から応募受領。 ・ 7 月 24 日：外部エンジニア、パイリン州ノンフォーマル教育 (NFE) 課と共に応募 3 社との建設現場を視察。 ・ 7 月 29 日：外部エンジニアおよび NFE 課と共に、応募書類の確認、ならびに入札者の過去建設物を見学。 ・ 7 月 31 日：外部エンジニアおよび NFE 課同席のもと、入札者への個別面談を実施。総合評価・協議により 1 社 (VRP 社) を選定。 ・ 8 月 14 日：VRP 社との契約書締結 ・ 8 月 21 日：Ou Doun Ta での CLC 建設開始 ・ 8 月～11 月：工事開始後、建設現場では VRP 社選任の工事現場リーダーに加え、当団体スタッフ (エンジニア) が日次で工事の進捗を確認し、本部スタッフ駐在員に報告。加えて、本部スタッフ駐在員

による週 1～2 回の現地視察、外部専門家による月 1～2 回の現場確認、パイリン州 NFE 課の現場施設などを通して建設過程の入念なモニタリングを実施。

- ・ 12 月 1 日：当団体スタッフ（エンジニア）、本部スタッフ駐在員、外部専門家に加え、CLC 運営委員会マネージャー、パイリン州教育局と NFE 課、パイリン州建設局土木課の立ち合いのもと、現場にて最終確認を実施し工事完了とした。

＜Phnom Koy CLC 補修および資機材提供＞

- ・ 職業訓練開始に向け 10 月より老朽化していた Phnom Koy CLC 建物内の電気設備などの補修を行い、訓練資機材の使用が可能となる状態にした。
- ・ Phnom Koy CLC の職業訓練コースの「美容コース」と「エアコン修理コース」で使用する資機材と訓練中使用する机や椅子などの備品を提供した。

1-2：CLC 運営支援

本事業年度では Ou Doun Ta CLC と Phnom Koy CLC それぞれの運営委員会への支援を行った。各 CLC の運営委員会が主体的に活動できていないことに加え、運営委員会との協議では具体的な課題として以下があげられた。

- ① 運営委員会の定期的かつ十分な内容の報告ができていない
 - ② CLC 運営にかかる予算不足
 - ③ 安定した就労に繋がる職業訓練のコース設定および、職業訓練参加者への訓練終了後のサポート不足（就労状況の把握ができていない）
- これらの課題を受け、各 CLC 運営委員会が中心となって、若者の安定した就労につながる「身のある」コースが計画的かつ継続的に実行できるよう、CLC 運営に必要な年間計画の策定と管轄省庁からの承認という一連のプロセスの仕組みを当団体より提案、実際に CLC 運営委員会に対して、落とし込みを行った。

上記課題を踏まえ、CLC 運営委員会がコースを計画し、NFE 課への承認申請ができるようなコースの年間計画、予算、コース内容の概要の定型書式（フォーマット）のドラフトを当団体にて作成。パイリン州全 7 か所の CLC 運営委員会に対し、NFE 課と共に年間計画策定の新しいプロセスと年間計画の定型書式に関する説明会を実施。さらに、個別に CLC 運営委員会を訪問し、計画作成段階におけるフォローアップ（個別研修）を実施した。

1-3：アウトリーチ活動（若者の誘導・参加促進）

中途退学した若者の多くが CLC の職業訓練にたどり着くことが困難であったがその主な理由として；

- ① 職業訓練に関する情報提供が行われる場所や機会が少なく、職業訓練を必要とする若者による情報収集が困難である、
- ② 情報提供を行うはずの各機関による情報ソースが少ないなどが挙げられる。

このため、①情報提供機会の確保や拡大、②情報提供機関同士の情報共有の機会の創出を目指した。

本年度事業においては職業訓練を実施する Phnom Koy CLC のある地域を対象に訓練コースの情報拡散を行い、コミュニティ内、学校内の掲示板を利用したのポスター掲示、フェイスブックの開設、同地域内のマーケット、バス停、店舗等へのチラシの設置を行った。また、対象地域内の中学校 4 校、高校 1 校を訪問し、直近の中途退学者の状況を確認した。

＜Sala Krau 地区中学・高校 5 校の中途退学者＞

学年	7 年生 (12 歳)	8 年生 (13 歳)	9 年生 (14 歳)	10 年生 (15 歳)	11 年生 (16 歳)	12 年生 (17 歳)	合計
合計	76	30	51	21	4	4	186 人
男子	43	14	25	14	0	2	98 人
女子	33	16	26	7	4	2	88 人

(2019 年 11 月～2020 年 10 月)

上記で把握した中途退学者に対して、学校関係者協力の元、84 名へ直接コンタクトを取ることが出来、その内 54 名の家庭訪問を行い、本人および家族に中途退学者の現状についての聞き取りほか、CLC で実施される職業訓練コースについての説明を行い、訓練への誘導に努めた。

2. 支援プログラムの強化

2-1：コンテンツの再構築

2-1-1：職業訓練内容の見直しと実施

Phnom Koy CLC にて 2 コース 1 期を実施。

＜職業訓練コース選定＞

安定した就職につなげること、訓練期間や開講する時間帯など若者にとっての受講しやすさなどを踏まえ、訓練コース選定を検討した。特に就労先の環境については、新型コロナウイルス感染症の拡大により就職先候補の企業や個人商店の経営状態が悪化しているなどの影響があるかどうかを把握するため、事業開始前に実施した市場調査をあらためてより詳細にかつ対象を拡げて行った（事業開始前は店舗数が多い美容店やバイク修理店などの職種に重点を置き、就労状況などを調査。今回は、職種を限らず、またコロナ渦での採用状況や就職時に必要スキルなどの追加ヒアリングを実施）。

またパイリン州内だけでなく隣接するバットンバン州においても求人募集を行っている企業、個人商店などをリサーチし、就職先の数など訓練後の就職のしやすさや就職直後の給与レンジに加え、就職後に昇給の可能性があるかどうかのヒアリング結果などをもとに、就職条件のよいこと、また、就職までの訓練期間で身に着けることのできるスキル習得の難易度などを判断基準として開講するコースの選定を行った。訓練を実施する期間については、パイリン州やバットンバン州の職業訓練センターからも意見を聞きつつ、若者やその保護者の理解を得るために短期での実施をする必要があることから当初計画通り 4 ヶ月の実施とした。

上記リサーチ結果をもとに、当団体にて「エアコン修理コース」「携帯電話修理コース」「バイク修理コース」「電気設備コース」「美容コース」を選定、Phnom Koy CLC 運営委員会の希望、CLC で実施可能なコース（資機材予算や CLC の立地状況など）を含め勘案し、運営委員会、NFE 課と共に「美容コース」と「エアコン修理コース」を選定した。

＜職業訓練コース実施準備＞

上記 2 コース選定後、運営委員会と当団体スタッフにて各分野での実務経験や講師経験などを鑑み各コースの講師を採用。また、訓練参加者が適切な訓練を受けられることを担保するため、採用された講師がパイリン州職業訓練センターにて指導方法についての研修を当センターのディレクターより受講した。

＜職業訓練 2 コースの実施＞

10 月 26 日、2 コースを開始。11 月下旬にカンボジア国内初の市中感染が発生したことを受け、12 月初旬から中旬にかけて感染の不安を

感じた生徒の欠席が増加（出席率 20～40%）。マスク着用、資機材の消毒、授業開始時の検温と消毒を行うなどの対策を講じた上で講師および当団体スタッフによる欠席生徒宅への個別訪問を行い、参加促進を起こった。いくら出席率が回復したものの、1 月にはタイから帰国した多くの移民労働者から新型コロナウイルス感染症が確認されたことにより再び出席率が 20～40%まで減少してしまった。感染拡大が落ち着いた 1 月後半に上記同様に個別訪問を行い、生徒らが再度出席するようになったが最終的な出席率は「美容コース」55.60%、「エアコン修理コース」48.2%となった。

2-1-2：ライフスキルトレーニング

職業訓練での技術訓練に加えて、訓練修了後に修了生が継続且つ安定した就業状態を保てるよう、勤労観、やり切る／やり抜く力、職場での上手な人間関係の築き方、現実的な将来の計画を立てるなどのライフスキルの向上を目標として職業訓練内にライフスキルトレーニングを組み込んだ。

各コースの職業訓練講師 2 名が、ライフスキルトレーニング実施先である SALASUSU にて研修に参加（第 1 回：11 月 25 日～27 日、第 2 回：2021 年 2 月 3 日～5 日）。講師としてのマインドセット（安心安全、皆が学べると信じる）、ソフトスキルの実戦練習、訓練生へのフィードバックの仕方、ハードスキルとソフトスキルの融合アクションプランやトレーナーとしての成長プラン策定方法などを習得した。本研修参加後には、講師が職業訓練を実施する中で、仕事の大切さや、訓練生が長期的に人生を考えられるように、当団体スタッフと共にワークショップや生徒への個別面談を通して、24 名の訓練生を指導した。

2-2：就業支援

訓練修了後に修了生の安定した雇用につながるよう、11 月と 12 月に職業訓練生と個別面談を実施、訓練生の教育歴、職歴および訓練修了後の就職先をヒアリングを実施した。

- ・ 1 月までにパイリン州からもアクセス可能な地域としてバンテミンチエイ州においても就職先の候補となる企業・個人店舗の開拓を行った。

就職先開拓店舗数／求人数

店舗／求人数	合計	パイリン州	バットアンバン州	バンテミンチエイ州
美容コース	15 店舗／ 22 人	12 店舗／ 17 人	3 店舗／ 5 人	
エアコン修理コース	11 店舗／ 22 人	1 店舗／ 2 人	4 店舗／ 11 人	6 店舗／ 9 人

- ・ 2 月上旬には Phnom Koy CLC にて訓練参加者の就職意欲の向上と CLC の認知度向上を目的とし、ジョブフェアを 3 日間開催した。求人情報を壁に張り出し、職業訓練生（および地域住民）が自ら興味のある職場を選び、就労コーディネーターを中心に相談窓口を設置、延べ 50 名が参加した。
- ・ 2 月中旬、訓練の最終段階においては就職面談サポートを実施。履歴書作成アドバイス、面接練習、店舗への面接アポイントメント、面接同行などを行った。

(3) 達成された成果	1. CLC の利用環境改善 前述の通り、コロナ禍の影響により CLC 建設工事の遅れとそれに伴う職業訓練の実施回数の削減に加え、職業訓練コース選定のためのニーズアセスメントの着手が遅れたことで、当初計画の目標を下回る結果となってしまった。しかし、本事業実施途中での下方修正した目標については一部達成することができた。 1-1 : CLC の施設設備の整備 Phnom Koy CLC では当初、15 名 × 2 コース × 2 期 = 60 名の訓練参加目標を設定していたが、活動開始の遅れに伴い、1 期のみの実施で計 30 名の訓練参加者数と目標を下方修正した。 1-3 で口述するアウトリーチ活動の効果もあり、Phnom Koy CLC で開講した「美容コース」と「エアコン修理コース」において計 37 名の参加があった。それぞれのコースの参加者数については以下の通りである。 「美容コース」: 21 名 「エアコン修理コース」: 16 名 1 コースと 1 期あたりでの参加者目標を達成することはできた。 本事業年度で開講することができなかった Phnom Koy CLC での 15 名 × 2 コース × 1 期 = 30 名、Ou Doun Ta CLC での 15 名 × 3 コース × 1 期 = 45 名については事業 2 年次に実施を予定しているため引き続き目標達成に努めていく。 1-2 : CLC 運営支援 本事業年度においては感染予防の観点から定期的な会議の実施が難しい状況であったものの、下記が実施できたことにより、各 CLC 運営委員会の自主性と、管轄課である NFE 課の CLC 運営への関与を強化することができた。 ・ 全 CLC を対象としたアクションプラン（コース内容、予算、年間スケジュール（コース開校準備、コース期間中フォローアップ））作成の説明会の実施 ・ 全 CLC によるアクションプランの作成 ・ NFE 課による CLC 運営委員会の活動モニタリングの実施（本年度対象 CLC に対し、月 1 回以上実施） 1-3 : アウトリーチ活動（若者の誘導・参加促進） NFE 課、学校関係者、コミュニケーションオフィス（村役場）の協力のもと、学校中途退学者へのアプローチを実施することができた。特に、中途退学者情報については上記事業内容で記載したアウトリーチ活動後も定期的に情報把握に努め、Phnom Koy CLC や Ou Doun Ta CLC のある Sala Krau 地区においては合計 208 名分のリストを取得することができた。 リスト取得時に CLC について認知している中途退学者は 4%ほどであったが、同地域のリストにあった中途退学者に対しては CLC の活動内容の紹介含め、全員にアプローチすることができた。 しかし、今後も新たに中途退学してしまう生徒が出てくることは予想でき、特に、コロナ禍による家庭の経済状況がどこまで影響を受けるのか図り切れないことから状況を注視していきたい。学校で直接生徒らに対して周知活動を行うことは今後もしばらく実際が困難と予想されるが、学校関係者を中心に中途退学者情報の収集に努め、間断なく支援が提供できる体制構築に引き続き努めていく。 2. 支援プログラムの強化
--------------------	--

2-1：コンテンツの再構築

2-1-1：職業訓練内容の見直しと実施

職業訓練コースの見直しから講師の研修までは前述の通り実施することができたが、訓練参加者の出席率（4 か月平均）については下記の通りとなった。

- ・ 「美容コース」：55.60%
- ・ 「エアコン修理コース」：48.20%

また、最終的な職業訓練修了生については；

- ・ 「美容コース」：66.70%
- ・ 「エアコン修理コース」：62.50%

とどちらも目標としていた 80%という目標を下回ってしまった。

出席率低下の大きな要因としては、感染が広がっているとの情報が出る中で外出を恐れる生徒や生徒の家族が増加したこと、学校、職業訓練センターなどの休校アナウンス情報が錯綜していることを受け CLC の職業訓練の実施の可否についても混乱が生じたことが挙げられる。また、このことで訓練参加への気持ちが無くなってしまう、休校になると勘違いしてしまったために職探しに出てしまった生徒もいるため途中で訓練を中止してしまう生徒もあり、上記の達成数値となった。

事業 2 年次についても同様の状況下での活動実施が見込まれるため、訓練参加者には早く正確な情報が行き届くよう、且つ、訓練参加への意欲が削がれることが無いよう、SNS や掲示板などのツールを利用しながらコミュニケーションをより頻繁に取るようにするなどの対策を講じていく。

2-1-2：ライフスキルトレーニング

Phnom Koy CLC 職業訓練講師 2 名が、受講した研修をもとに、訓練生が社会で生き抜くライフスキルを身につけられるように指導を行うことができた。また、当団体スタッフもワークショップや生徒への個別面談を通して、長期的に人生をしっかり設計することの大切さを反復して生徒たちに伝えた。

その結果、職業訓練前は、定職もなく、自身の将来を考えることが少なかった生徒たちが、スキルを身に着けることで自信をもち、就職活動への積極的な取り組みや、就職できるまで諦めずに何回も面接に挑戦する生徒もみられた。また、就職後 2 か月後(5 月初旬)の就労継続率は、美容コース修了生 64.3%、エアコン修理コース修了生 90%であったが、離職した若者の中には、就職後のスキル不足を解消すべく職業訓練の再受講をしたいという者もあり、自身の人生をしっかりと考えることができるようになった。

2-2：就業支援

訓練修了生の就業率は目標を下回ってしまったが、訓練終了直後の修了生の就職率は 100%と目標の 90%を上回ることができた。就職直後の平均月額収入は「美容コース」で 110 ドル、「エアコン修理コース」で 108 ドルと訓練修了生の平均月給目標の 182 ドルを下回っているがパイリン州店舗（企業を除く）の平均給与 103.68 ドル（当団体調べ）以上、多くの就職先にて住居・食事（賄い）などの福利厚生があり、また、試用期間後の昇給の可能性があるなどの条件のよい店舗への就職となった。既に、昇給見込みとなる修了生もいるが、引き続き、半年後、1 年後にも就労状況を把握し、2 年次以降の中間報告・完了報告時に更新情報を報告していく。

(4) 持続発展性	CLC 運営委員会、NFE 課、更にはパイリン教育局などの関係諸機関と共に各活動を進めることにより、CLC の運営に積極的に関わる姿勢が見受けられた。職業訓練コース選定においても当団体によるリサーチだけでなく CLC 運営委員会や NFE 課も協力して行う体制が出来、リサーチ結果を受け取るだけでなくそれぞれの意見なども建設的に出して結論を導き出そうと、自分事として捉えて活動にあたることができている。 また、特に本事業年度において実施した Ou Doun Ta CLC での建設においては同 CLC 運営委員会も積極的に建設過程の確認や、竣工後の建物の状態を確認するなど地域の所有物として管理する意識が見受けられた。 事業 1 年次終了時点での各 CLC の施設所有権と管理運営についてはパイリン教育局と譲渡合意書を交わしたが、引き続き 2 年次以降についても同様の体制が取れるように、また、継続されるよう注力していく。 運営費の改善について、UNESCO、カンボジア教育省、財務省への働きかけを計画していたが、コロナ禍での移動の制限により限定的となってしまうている。カンボジア教育省には毎月の報告書の送付と共に 1 度、直接の経過報告を行うことができたが、2 年次以降、他機関への働きかけ含め、引き続き活動状況の報告、共有を行っていき予算確保に努めていく。
------------------	--